

令和5年度 研究概要

| | |
|------------------------------|--|
| <p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p> | <p>研究会議名</p> <p>図画工作・美術科研究会議</p> |
| <p>研究主題</p> | <p>自分らしい表現を目指して試行錯誤する子どもの育成 ～お互いのよさを認め合う鑑賞と試して表現する活動を通して～</p> |
| <p>資質・能力</p> <p>育成を目指す</p> | <p>自分らしく創造的に表す資質・能力</p> |
| <p>研究内容</p> | <p>図画工作・美術科では、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成する等については、更なる充実が求められている。しかし、実際の授業では、「まあ、これでいいや」という児童生徒のつぶやきに代表されるように、「自分の表現に自信が持てず、よりよい表現に高めるための追求ができない」現状が見られる。その要因としては、表現及び鑑賞の場面で互いの作品を見た時に、安易な他者との比較をしてしまうこと、表現の場面で、自分が表したいことを思いついたとしても、自分の表したい意図に合う表現方法が見つけれないことが考えられる。そこで、研究主題を、「自分らしい表現を目指して試行錯誤する子どもの育成」とし、副題を、「お互いのよさを認め合う鑑賞と試して表現する活動を通して」と設定した。</p> <p>「お互いに認め合う鑑賞」とは、「子ども同士で、多様な表現のよさを見だし評価し合うこと」とし、多様な表現のよさを感じ取りながら、自分らしい表現のよさを感じ取って自信や愛着をもつことにつながると考えた。次に、「試して表現する活動」とは、制作する前に、「テーマを与えて多様な表現方法の中から選択し、表現を試してみること」とし、試した経験を活かしながら、自分が表現したい内容に合う表現方法を自ら決めて表現を追求できるようになると考えた。</p> <p>これら2つの活動を題材に位置付けた授業を実践し、ワークシートの記述やインタビューから、2つの手立てが有効に働いたのかどうかについて成果と課題を明らかにし、自分らしい表現を目指して試行錯誤につながるものについて検証することにする。</p> |